「桜の樹」ニュースレター vol.32

岡倉天心記念
がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

2024.3

「雛人形の思い出」　　凪ちゃん

私の娘の初節句に、雛人形をいただいた時の懐かしい思い出をお話しします。

当時同居していた義理の母は、木目込人形を作る仕事をしており、いただいた雛人形は母手作りの豪華な七段飾りでした。娘はニコニコしながら初めて見る煌びやかなお人形を見ていました。飾り付けをする日、母は、ところどころ思い出すようにしながらも手際よく飾りつけてくれました。私は、雛人形の飾り付けが初めてで、どこの段に何を飾るのか全くわからず、娘の為に何も出来ない自分に、残念な気持ちになっていました。もやもやしながらも飾り付けが終わり、改めて七段飾りを眺めてみました。穏やかで美しい雛飾りは本当に可愛らしく、少し前のもやもやが一気に無くなり、心が和みました。娘と母も出来上がりに満足したのか、いつものように笑っていました。

雛人形は人の姿をかたどったものに、けがれを移して難を逃れる厄除けに由来しているそうです。気品高い顔立ちや華麗な衣装、仲睦まじくならぶ様子は、長い歴史の中で日本人が理想としてきた姿、その「幸せのかたち」を飾るのだそうです。雛人形は、大切な子供を守ってくれるお守りのような存在なのです。

3年前、私はガンの手術の際にお守りをいただきました。お守りのお陰もあり、日々元気をいただいている今、見えない力が宿る存在に、心があたたまるのを感じています。娘は結婚し、男の子を産みました。

その子も2歳になり元気に走り回っています。物置きにしまったままの雛人形に感謝し、「お世話になりました」と心で伝えました。

「新しい世界」　　ミニオン

先日スマホを新しくしました。6年以上使っていて「バッテリー交換が必要になっています」店員さんが。「交換しても他の箇所もそれなりに傷んできていると思います。今のスマホの基本ソフトもアップデートの保証期間はすぎています。新しくお買い求めになっては？」の言葉にすすめられて一番新しいスマホを購入。色々使えるんだと講習会に参加しました。

Photo by ミニオン

テーマは「建物を撮ってみよー」です。

少人数で外に撮影練習。色々な角度からパシリ。

パシリ。先生の指導で自分が知らない世界が。これから春ですね。外に出て楽しもうとウキウキ気分の自分がいました。

アレ。スマホて電話。ですよね。携帯電話は当たり前だったね。

Photo by ミニオン

Photo by ミニオン

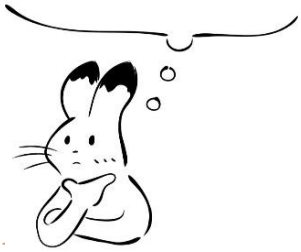
「がん防災」　ニャンコ先生

「がん防災」というタイトルで一般社団法人がん哲学外来のオンラインセミナーを聴講しました。
　私にとっては初めて聞く言葉です。「がん」という病気は２人に１人は罹患するといわれています。
　原因はリスクが高いものとして、いろいろ言われますが特定はできません。煙草を吸わない人が「肺がん」になることがあります。お酒を一滴も飲めない人が「肝臓がん」になることがあります。
ということは「がん」は誰にでも突然やってくる災害のようなものとも言えます。
それなら、地震のような災害の時に備えるように、「がん」に対しても備えようという考えでした。

　内容で大事なものとして「おかねの点検をしよう」がありました。「がん」に罹患すれば治療費はもちろん生活費にも影響がでます。その時の公的制度、勤めている人は企業の制度も知る必要があります。もちろん貯蓄額、生命保険の内容も確認する必要があります。
　また、誤解しがちなものがありました。
その一つに標準治療は平凡な治療ではないということです。標準治療とは、膨大な数の臨床試験をくぐり抜け、効果もリスクも検証した一番有効な治療という意味です。
　その他「がん防災」として小冊子(A５版２７頁)にまとめられ、ダウンロード版(PDF)を入手しましたのでご希望の方には送付します。

「病気になっての一年」　snow man

　もし　きれいな言葉を並べて　まとめるなら……
この一年のガン治療は･･･　病気になって
『人生には思い通りにならないこともある』……あるんだよ、、、
って私自身が私に教えてくれるための病気だったような気がする。



「最近読んだ本と「しずくの冒険」」　うらちゃん

【ネガティブ・ケイパビリティ　答えの出ない事態に耐える力】
帚木蓬生　朝日新聞出版

　ここ数年私は、病、他者の心の痛み、老化、人の争い、人の死…など、すぐには解決できない複雑な問題に直面することがありました。かつて学校や職場ではできるだけ早く問題解決の答えを出すことが価値のあることだと教えられましたが、それと対極にあるのがこの能力(ネガティブケイパビリティ)だというのです。早急にひねり出した安易な答えに飛びつかず、事態を見守り耐える力。難題を前にして、「宙ぶらりん」に耐えながら、わずかな光を頼りにして歩き続ける..そんな能力が必要だと。

　この本を読んでいて思い出したのは、故山本ひろみさんが、小冊子※「しずくの冒険」で「目下の急務はただ忍耐あるのみ」という言葉を大きく取り上げていたことです。私はそれを見た時、それまでも 20 年も耐え続けていただろうにまだこれ以上…と思ったのです。
　でも今回「忍耐」ということばの意味を調べると、「辛さと向き合い、その辛さをばねにして自分の目標に向かっていく」という意味があることを知りました。ただ「耐え忍ぶ」だけではないということを。
　確かに、ひろみさんは体調が優れなくても歩みを止めませんでした。コロナ禍でもカフェは開催したし、声が出ない日も司会をし、車椅子で美しい蓮の写真を撮りに行き、ベッド上でカフェの仕事をこなしました。

　本書の中で、「誰でも一人で苦しむのは耐えられません。誰かその苦しみを分かってくれる、見ていてくれている人がいると案外耐えられるものです」という記述が2度出てきます。私自身が孤軍奮闘しているとき、駆けつけてくれた人たちのことを思い出しました。

※「しずくの冒険」
2022 年　発行　樋野興男
癌哲学カフェの関係者が
2頁ずつ担当している
ミニエッセイ集

Photo by　ミニオン

Photo by　うらちゃん

Photo by　ミニオン

心動かされるエピソードや素敵な
お写真をいつもありがとうございます

岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」
sugamocafe.sakura@gmail.com
https://sugamo-sakura.com/
後援：一般社団法人がん哲学外来
代表　西原　光治
編 集　浦 川 慶 子